

新潟教育研究所

令和6年5月30日発行 第55号

公益財団法人新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3
URL <http://kyouikukai.jp>

新潟教育会館

TEL・FAX 025-222-2971

E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

国際比較を通じて見える 日本の教育の強み

文部科学省 高等教育局
学生支援課長

桐生 崇



パリに本部のある経済協力開発機構(OECD)という国際機関をご存じでしょうか。各国の政策の国際比較分析を行っている機関であり、教育分野では各種報道で大きく報じられる生徒の学習到達度調査(PISA)、国際教員指導環境調査(TALIS)等で有名です。私は3年間OECDの日本政府代表部に勤務しておりましたが、そこで行われていた議論は日本国内の議論とは相当異なるものでした。

国内では“日本の教育は個性を育てない画一的な教育だ”、“学校も教育委員会も文科省も問題が多い”、という論調で語られることが多いのは皆さんもご承知の通りです。一方、OECDの長年に渡る客観的データに基づく国際比較分析からは全く異なる面が浮かび上がってきます。

PISAの卓越性(リテラシーの各国平均点)と公平性(家庭の収入等の環境が得点に影響しづらい)の両方ともが長年にわたり各国平均以上となっている国は非常に数が少ないのですが日本はその1つです。特に多くの欧州各国は日本の人口の半分以下ですので、欧州各国からは日本のような人口の大きな国で卓越性と公平性の両立はどのように可能なのか、秘密は何かという質問をいただくことがありました。

その答えは様々な答え方が可能ですが、学校における授業の質の高さは確実に挙げられます。OECDグローバル・ティーチング・インサイト(GTI)(2021)においては各国の実際の授業をビデオで録画して国際比較を行う研究が行われました。授業の発言内容や動作を分析した国際比較はおそらくこれが初めてでしょう。この分析結果

では、日本の授業は他国の授業に比較すると、考え方や手続きがなぜそうであるのかを詳細に説明していること、反復練習の機会は少ないこと、励ましや温かさなどの社会的・情緒的支援の割合が高いこと等が示されました。日本の授業ではできるだけ一人で考えられるように、温かく指導している像が国際比較から浮かび上がっています。

子供の能力の違いに関しては国によって認識が異なります。生まれつき決まっているので早めに能力別に分けて教育した方がよいという考えの国もありますが、日本は生まれつきの違いよりも同じ潜在能力があるので教育で伸ばせると考える人の割合が高いです。この認識が本人、保護者、教職員等の大きな希望と期待となっている一方、ともすると教育に対して過度な期待となり、教育はどの場面でも完璧でなければ許されないという強いプレッシャーになっているとも考えられます。このような国際比較等も踏まえて実態や実情をよく理解していただくべき部分はしていく必要がありますが、強い期待は支援の力ともなってもらえる部分であり、Win-Winにしていく工夫が求められているところです。

国際比較からは日本の教育の質の高さは明らかであり、教育に携わる皆さんには自負と誇りをもっていただける部分です。批判に対応して課題を消すことに懸命になるあまり、強みも薄めてしまっているかもしれないと考えます。先の見通せない時代には、強みこそが個人にとっても地域にとっても国にとっても切り札となります。

地域の思いと子どもをつなぐ

新潟教育研究所 教育アドバイザー

黒崎千賀子



<はじめに>

「若い人がいればねえ…」地域の伝統芸能を担う高齢の方々のため息交じりの言葉です。「オレの下にやる人はもういね…」寂しそうに語ります。地域の伝統芸能のいくつかは、その存続が危ぶまれています。すでに消えてしまった伝統芸能もあります。

お話をお聞きして「学校教育で生かせることはないのだろうか?」と考えさせられました。子どもたちの地域への愛着を深める上でも、脈々と地域に伝わってきた伝統芸能を地域の方から学ぶことは意義があります。そのために、地域と子どもを繋ぐことも学校の大切な役割と感じています。

<寺泊小学校 伝統芸能伝承授業>

伝統芸能を教育活動に取り入れる方法は無いかと検討した末、平成28年度、「総合的な学習の時間」を使い、地域の方から学ぶ場を設定することとしました。目標は、地域の芸能祭への出演。授業時間は10時間程度。「寺泊音頭」「塩たき節」「八幡囃子」「大和舞」「野積盆踊り」の5つの伝統芸能を教えてください。子どもたちは、話を聞いたり調べたりしたことをもとに、自分で選んだ伝統芸能を教えてくださいました。

その後、校長や職員が変わっても、この授業は脈々と続きました。異動で寺泊小学校を離れていた私でしたが、退職を機に寺泊小学校のコミュニティスクールディレクターとして、再び伝統芸能伝承授業を担当することとなりました。

授業の様子を見てみると、「寺泊音頭」では三味線と唄・太鼓に分かれて練習スタート。三味線の先生は83歳。でもとてもお元気。「ここ押さえて!鳴らす!そう!」一つ一つ、ていねいに教えてくださいました。子どもたちは、左手の移動に大苦戦。黙々と一生懸命三味線に向かいます。「そうじゃねえて!」「……」「そうじゃねえて!」と何回もダメ出し。中には涙を見せる子も…。休

み時間に「はあ〜。難しい〜。」と子どものため息。地域の先生が「ようがんばったね!がんばったががんばった!」と声をかけてくださって、子どもたちの表情も少し柔らかくなりました。

「八幡ばやし」は、篠笛と太鼓・鉦ですが、まずは全員で篠笛の練習。これがなかなか難しいのです。まず、音が出ません。何度やっても「スー・スー」。先生から「音が出るように、家でも練習してください。」と言われた子どもたち。いわれた通り頑張った数名の子ども。2~3週すると、音が出るようになってきました。指を覚えて得意げに吹いて聞かせてくれました。

他のどの授業も、地域の先生の熱意溢れる授業となりました。

芸能祭当日。大きな拍手をもらい、発表を終えることができました。子どもたちは満足げに家族と帰路へ。会場の玄関前では、八幡囃子の子が道行く人に聴いてもらいたいのか、気持ちよさそうに篠笛を吹いていました。「すごい!上手だね!」の言葉に、「簡単だよ」の応え。芸能祭の一日は、子どもたちにとって、自分の地域の伝統芸能に少なからず誇りを持った一日となったようです。

子どもたちと地域の先生方、そして、学校の先生方が「発表」という一つの目的に向かって一生懸命取り組んだことで得られる成就感、達成感。

「伝統芸能伝承授業」は素晴らしい活動であることを実感することができました。

<おわりに>

伝統芸能に限らず、どの地域にも素晴らしい宝が必ずあり、そこに思いを寄せる地域の方がいらっしゃいます。その宝・人々を見出す目を持つこと。そして、地域と子どもを繋ぐことは、学校の大切な役割であると感じます。地域の方々は子どもたちをとてかわいがってくださり、子どもたちが輝いてきます。地域と繋がる学校は、地域の人々に愛される学校となります。

ハーフ & ハーフ

新潟教育研究所 研究員

宮川由美子



はじめに

先日、あるコンサートのチラシに目を引かれた。行きたいと、どうしようかが拮抗した。申込が二次元コードだったからである。自慢じゃ無いが私は生粋のアナログ派。試しに電話をしてみた。案の定、電話の向こうは戸惑っていた。「今時、二次元コードが扱えないなんて」と思ったに違いない。扱えます！アナログ派代表の声です！

1 ギブアップするか否か

4月から、高等学校で音楽の授業をしている。学びの場としての高等学校が、私の教員人生唯一の未知の世界だったことが引き受けてしまった大きな理由。要するに、私が好奇心の塊なだけ。

ただ、不安が少なからずあった。完全なる孫世代。果たして、私の授業で大丈夫だろうか？

4クラス担当することになった。それぞれ2時間ずつ8コマ。事前に教科書を眺めたが、初っ端からLemon登場。J-POP好きの世代だから、まあ、そんなものか。日本歌曲は……無理か。校歌が、宮終二作詞・平井康三郎作曲。凄い。

2 物は変われど

この春、新任教師として、あるいは講師として巣立っていった学生たち。スマホ、パソコン、iPad等々自在に使いこなしていた姿から、これからの教室の景色の激変が見える気がした。

そんな彼らを含め関わった学生たちが、私の大学勤務最終日、サプライズで顔を見せてくれた。思いがけず手にした「卒業アルバム」に、その作成の困難さを口にすると、ウェブ上でフォトブックがいとも簡単に作成できるという。卒業学年担任は卒業アルバムが大きな仕事。その大変さを想像できるのはアナログ世代だけか。

しかし、いつの時代も、そのように戸惑う人々を尻目に変化していった。我々世代が特に構えることなく使っていたコピー機やFAX機能。大先輩たちはどう感じていたのだろうか。もっと遡れば、

筆から鉛筆へと変わった時代、困惑した先生もいたはずだ。でも、変化の波は容赦ない。

一人一人のコメントを読みながら、共に過ごした一コマコマが鮮やかに思い出された。

「絶対に教師になります。赤い〇〇〇に乗ります。ハムスターを飼って、名前をゆみちゃんにします。」おしゃれで、自炊ではグラタンが得意、珈琲にこだわりありの男の子だったなあと一人笑ってしまった。手書きの手紙を渡してくれた学生がいた。結果が出なかった時、何回も何回も面談した学生だ。その時の思いが綴られていた。今頃は、夏への挑戦と講師としての日々に、中越の地で汗を流していることだろう。

3 誰が支援するの

年明けの地震の後始末は、我が家でも続いている。ライフラインの復旧や家屋の修理、税金や医療への補助制度等々、タイムリーな情報は今やネット上が主流である。やっとならぬところであるが、そこから情報を得ることは私はできる。パソコン堪能の弟、甥や姪という助っ人もいる。

いつも思うのだが、独り暮らしの、そんなことが不得手な人たちへは誰が助けてくれるのだろうか。老母に「あなた、独り暮らしだったらどうする？」「な～んにも分からないわ。どうしよう。」デジタルだけでなく、年金や介護保険等に関する郵便物もしかり。老化の一途をたどる私は何度も読む、分からない、読み返すの繰り返し。同世代の、あるいは先輩の皆様はいかがですか？

おわりに

画面の中だけで完結することに100%信用がおけない私だが、どうしてもという場合はデジタルへ。でも、許されるならアナログに留まりたい。

古町にあった老舗ホテルのスカイラウンジで飲む「ハーフ&ハーフ」が好きだった。アナログとデジタルも、ビールに置き換えれば「ハーフ&ハーフ」私なりの着地点かもしれない。

令和6年度新潟教育研究所事業 Support, Information & Opinion S. I. O. の充実をめざします

第16回教師力アップ講座

「個を生かすための自律性支援と学習指導の工夫」

～個別最適な学びの具体的な進め方～

別紙「教師力アップ講座」の案内状をご覧の上、お申し込みください。HPからも申し込み可能です。

●日時 令和6年7月20日(土) 午前9時45分～

●会場 新潟教育会館(新潟市西大畑町590-3)

「じっくりと取り組みたい」という参加者からのご意見を受け、昨年度から一日を通して一つの講座で実施しています。今年度もタイムリーかつ魅力的な内容をお二人の講師からご指導いただきます。



講師 堀田 雄大様
経歴

新潟市立巻南小学校教諭
新潟大学附属新潟小学校教諭
文部科学省初等中等教育局
教育課程課 専門職
新潟市立総合教育センター指導主事



講師 落合 悠太様
経歴

新潟市立内野小学校教諭
新潟市立女池小学校教諭
自己選択を大切にした
授業づくりのスペシャリスト

教育アドバイザー派遣事業の推進

教育アドバイザー派遣事業は、要請に応じて登録いただいている教育アドバイザーを派遣し、学校



及び先生方を支援する制度です。校内研修はもちろんですが、授業研究会、PTA講演会、研究サークルへの派遣申請が多く見られます。個人研修の要請にも応じますので、ご利用ください。

教育アドバイザーの選定は、「教育アドバイザーリスト」をご覧ください。12月には、令和6年度登録者を加えた新リストをHPにアップします。

(昨年度からリストの配布は行っていません)

所報「新潟教育研究所」の発行

6月・2月の年2回の発行です。

令和5・6年度教育スペシャリスト育成事業

所報54号でお知らせしましたが、14名の先生方がそれぞれの専門分野で教育実践研究を進めています。日ごろの疑問や悩み等を、指導者から細やかに受け止めていただいているというような話もお聞きしています。成果が期待されます。

教育アドバイザーの派遣について

要請の仕方

校内研修で、研究会で、PTAの講演会で、研究サークル、個人等で、「あの先生にアドバイスを受けたい、話をしてもらいたい」と思ったら……

- 1 まず事務局にお電話をください。
新潟教育会事務局「025-222-2971」へ
招請したい教育アドバイザー、期日、内容、会場、参加人数等をお知らせください。
- 2 事務局が教育アドバイザーに連絡をとります。
- 3 依頼者に承諾の結果をお知らせします。

- 4 応諾であれば、依頼者が教育アドバイザーに詳細を連絡してください。

* 事前に教育アドバイザーと連絡を取り、結果を事務局にお知らせいただく形でも結構です。

派遣経費について

交通費を考慮した謝金は、年度内で連続して同一の教育アドバイザー派遣を要請する場合、初めの1回分だけ当方が負担します。2回目以降は利用者が負担となります。教育委員会からの要請はご相談ください。